



12月12日、浦村町の角田孝義さんがかがみうら保育所を訪れ、こどもたちに木で作ったバッタのおもちゃ50個をプレゼントしました。

こどもたちは、全員でお礼の気持ちを込めて、歌のお返しをしました。

角田さんは、「体が不自由ですが、頑張って作りました。やればできるということを、自分と同じような体の人にも見てほしい」と話されました。角田さんは、昨年も手作りの竹とんぼを同保育所に寄贈しています。

手作りのバッタ、ありがとう



12月2日、保健福祉センターひだまりで障がい者の日記念事業「第6回ひだまり広場」が開催されました。今回は、介助犬アトムをパートナーに読売新聞中部支社社会部の記者として活動している館林千賀子さんをお迎えし、心のバリアフリーについてお話をいただきました。

館林さんは、高校在学中に交通事故に遭って車椅子で生活を送っています。講演では、介助犬アトムとの出会い、大学進学や記者になるまでの体験談とともにバリアフリー社会の実現には一人ひとりの理解が必要であることを語られ、会場から大きな拍手を送られていました。

一人ひとりの理解が大切

まちの話題 18号



柔道を通して青少年の健全なスポーツ精神の育成と、各団の親睦を図ることなどを目的に少年柔道交歓鳥羽大会が、11月25日に市武道館で開催されました。

20回目を迎えた今大会には、鳥羽市の2団体を含め県下各地から16団体241人の小学生が参加し、日ごろから練習してきた技を競いました。

会場には、気合い十分にぶつかり合う選手たちの熱気と、家族の声援があふれていました。

気合十分！技を競いました



12月1日、長岡地区青少年育成会による「花いっぱい運動」が行われました。今年で5回目となる今回は、弘道小学校・長岡中学校の児童・生徒や地元町内会のかたが一緒になって、千賀町から堅子町の道沿いにスイセンの球根約1000球を植えていきました。

長岡中学校環境美化委員長の奥田由里恵さん(3年)は、「休日にもかかわらず多くの方が集まってくれました。いっぱい植えたので、来年の春が楽しみです。」と話してくれました。球根を植え終わった後、畔蛸漁港まで全員でごみを拾いながら帰りました。

きれいな花とまちでお迎えします